

子どもについては、「聞こえにくい(1.6 倍)」「よくかぜをひく(1.5 倍)」「歯が痛い(1.5 倍)」の順に大きくなっています(図 32-3)。

(ウ)世帯構成別

ふたり親世帯と母子世帯又は父子世帯のいずれかとの間で差の倍率が大きい項目に着目して見ると、小学校5年生・中学校2年生の保護者については、「ねむれない(2.1 倍)」「よくかぜをひく(1.6 倍)」「不安な気持ちになる(1.6 倍)」の順に大きく(図 33-1)、5歳児の保護者については、「ねむれない(2.2 倍)」「ものを見づらい(1.8 倍)」「よくおなかがいたくなる(1.8 倍)」の順に大きくなっています(図 33-2)。

子どもについては、「聞こえにくい(1.4 倍)」「よくかぜをひく(1.3 倍)」「歯が痛い(1.3 倍)」の順に大きくなっています(図 33-3)。

(エ)初めて親となった年齢別

小学校5年生・中学校2年生の保護者、5歳児の保護者ともに「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「不安な気持ちになる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」といった項目において、10代群は他の群に比べて顕著に割合が高くなっています(図 34-1、図 34-2)。

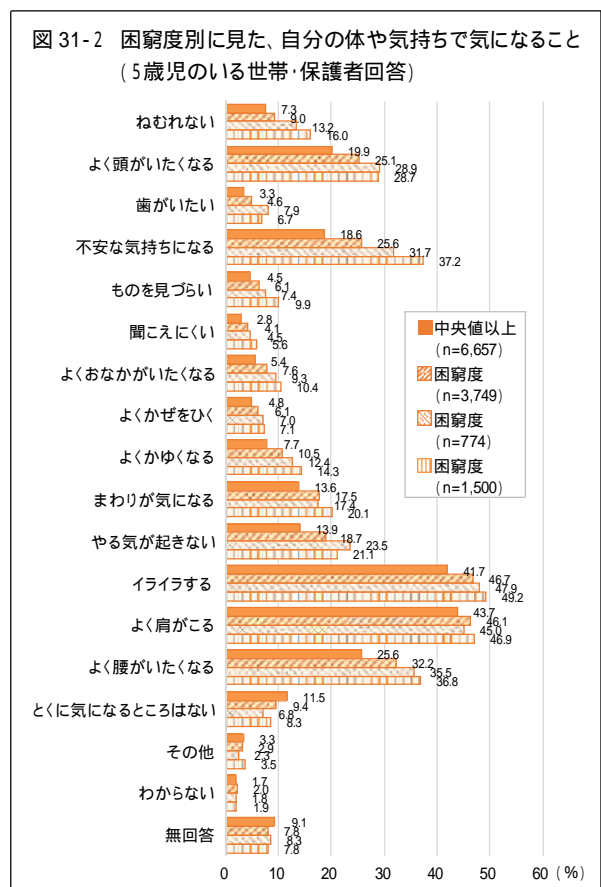
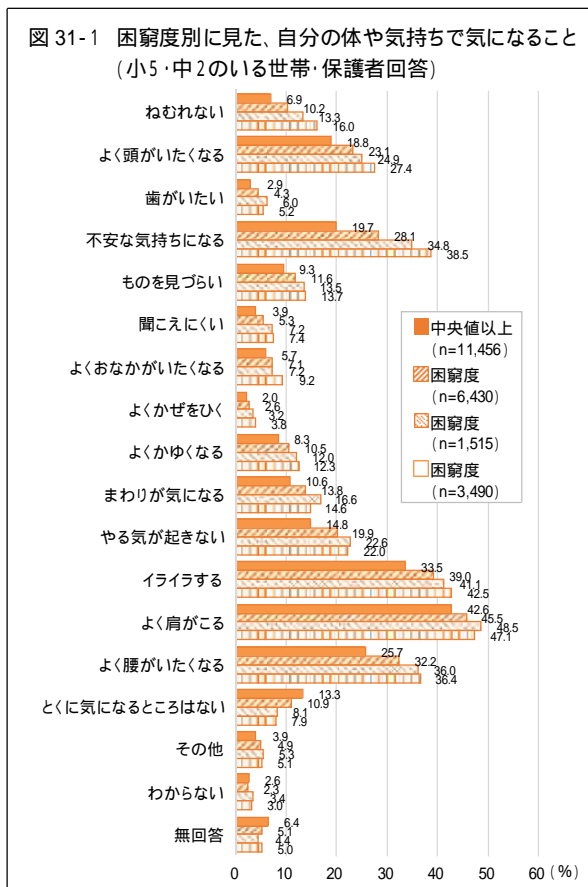


図 31-3 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること (小5・中2のいる世帯・こども回答)

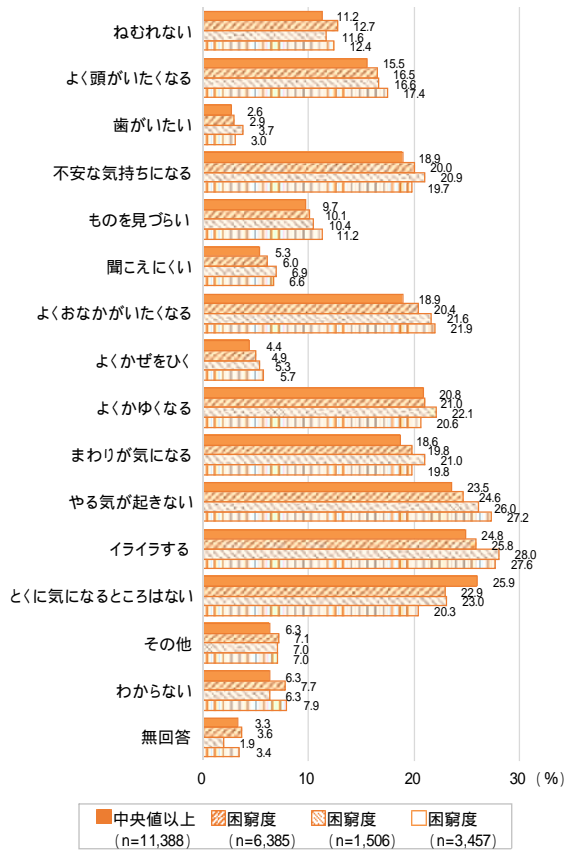


図 32-1 世帯における経済的な理由による経験 (図4-1参照) 該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること (小5・中2のいる世帯・保護者回答)

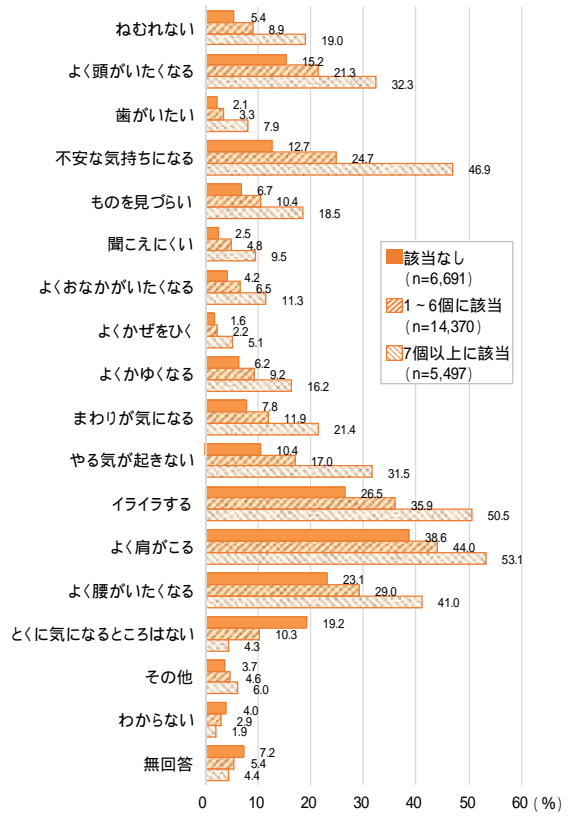


図 32-2 世帯における経済的な理由による経験 (図4-1参照) 該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること (5歳児のいる世帯・保護者回答)

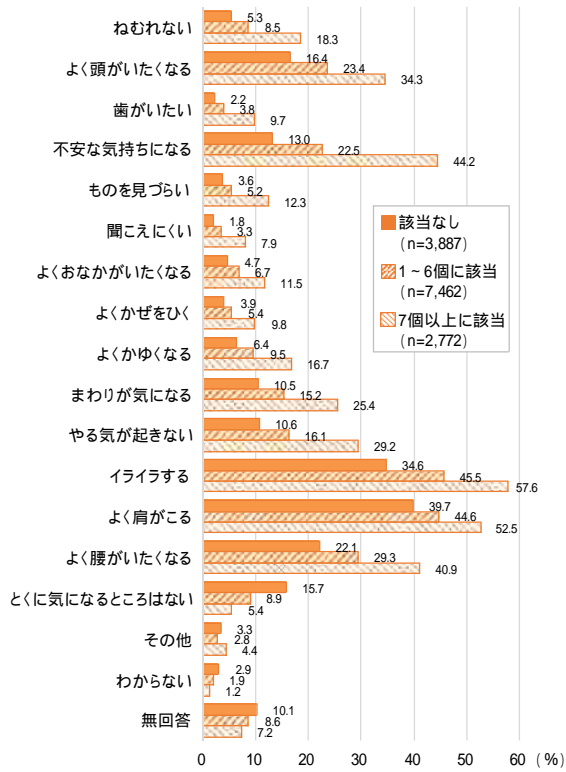


図 32-3 世帯における経済的な理由による経験 (図4-1参照) 該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること (小5・中2のいる世帯・こども回答)

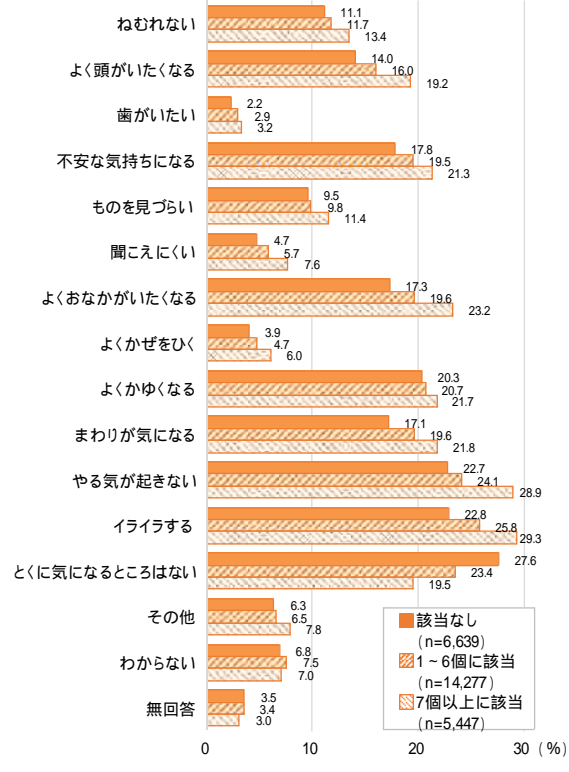


図 33-1 世帯構成別に見た、自分の体や気持ちで気になること(小5・中2のいる世帯・保護者回答)

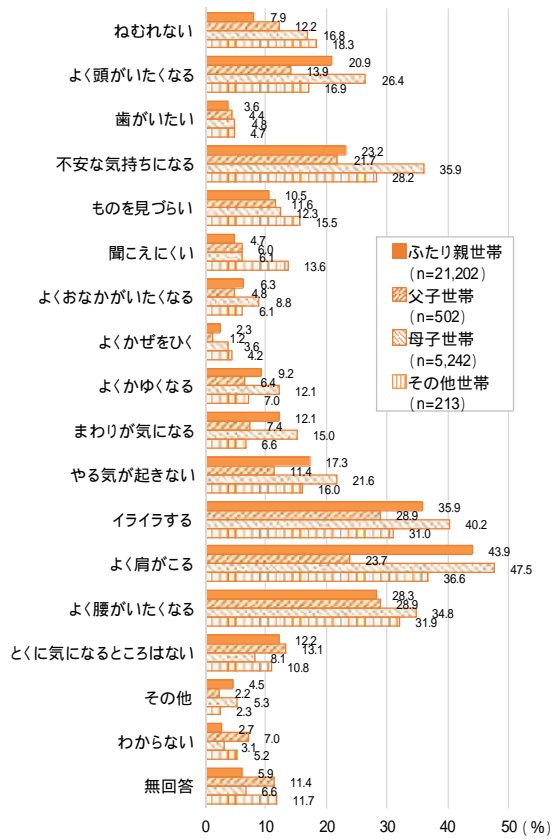


図 33-2 世帯構成別に見た、自分の体や気持ちで気になること(5歳児のいる世帯・保護者回答)

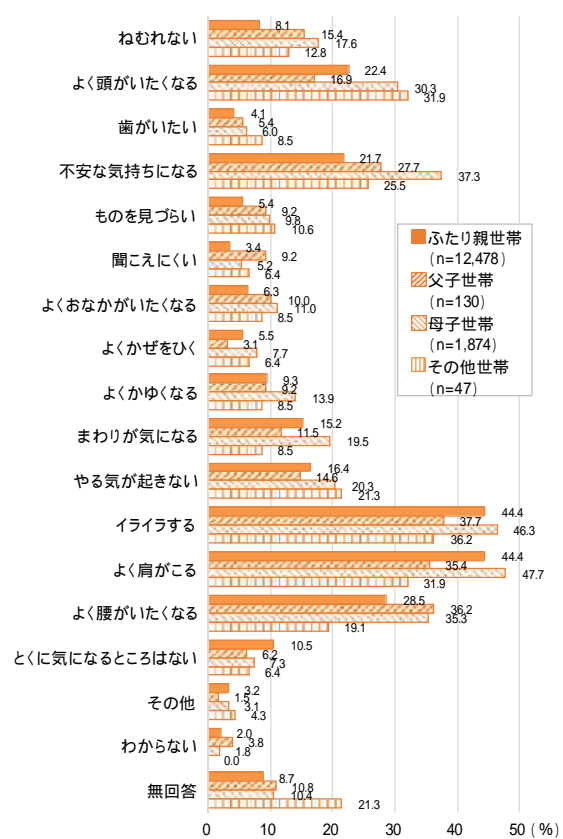


図 33-3 世帯構成別に見た、自分の体や気持ちで気になること(小5・中2のいる世帯・子ども回答)

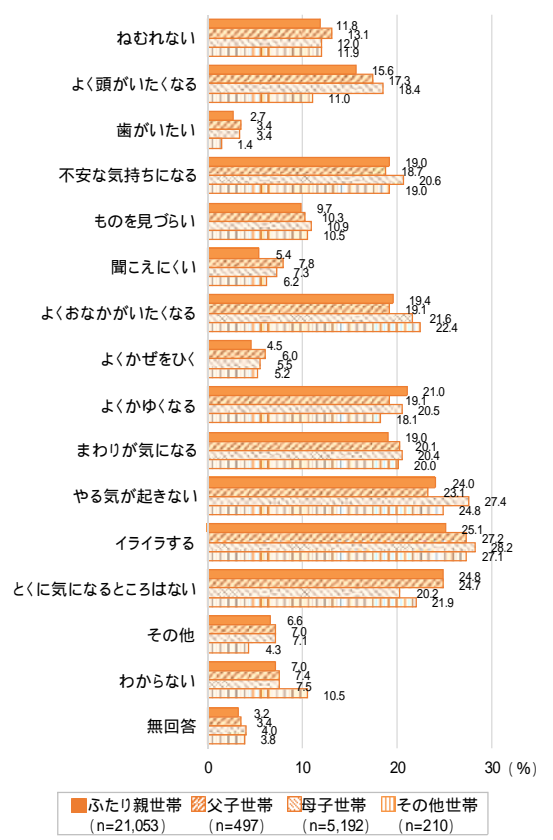


図 34-1 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること(小5・中2のいる世帯・保護者回答)(母親が回答者)

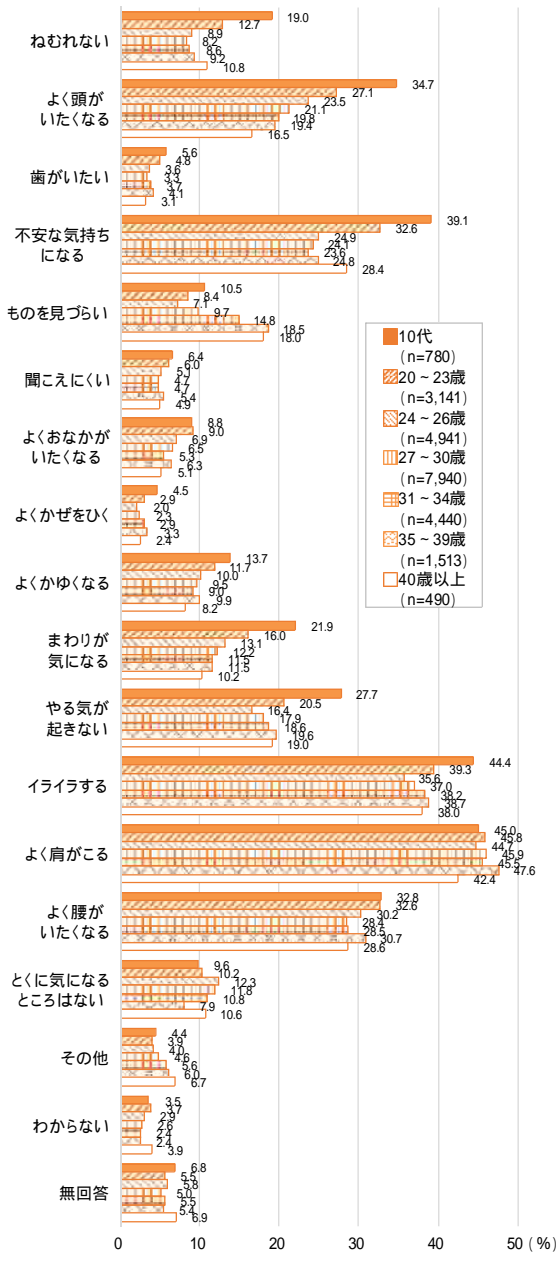
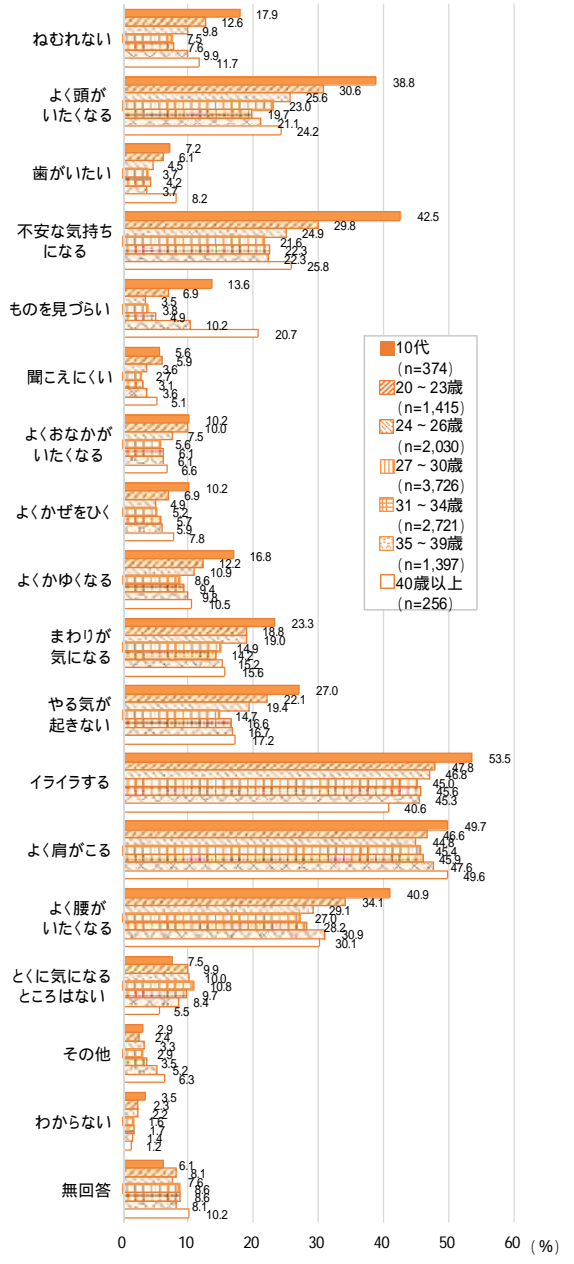


図 34-2 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること(5歳児のいる世帯・保護者回答)(母親が回答者)



ク 困窮度別に見た保護者の心の状態

(ア) 生活を楽しんでいる

困窮度が高くなるにつれ肯定的な回答の割合が低くなっており、生活を「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」の合計の割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の76.3%に対し困窮度 群は 59.5%(図 35-1)、5歳児の保護者では、中央値以上群の 81.3%に対し困窮度 群は 69.4%(図 35-2)となっています。

(イ) 将来に「希望が持てる」

将来に「希望が持てる」と回答する割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の 33.8%に対し困窮度 群は 16.8%(図 36-1)、5歳児の保護者では、中央値以上群の

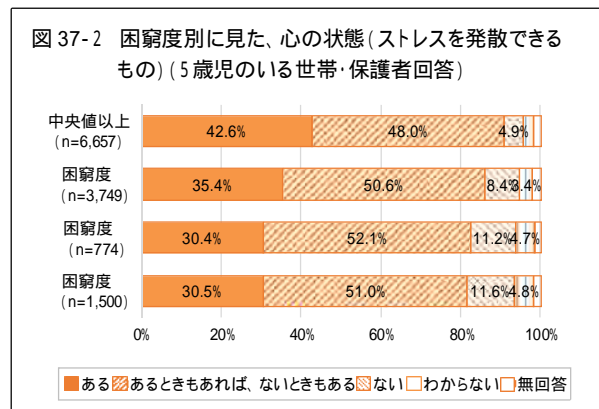
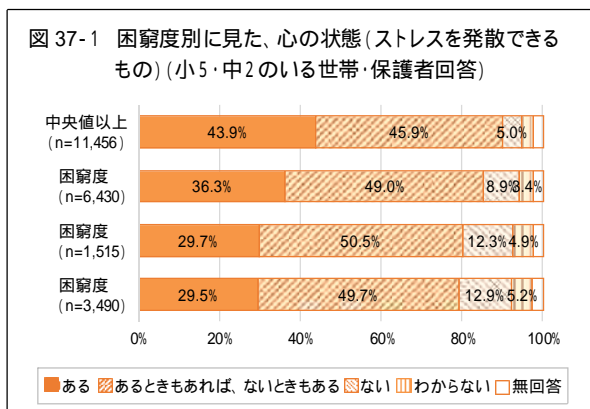
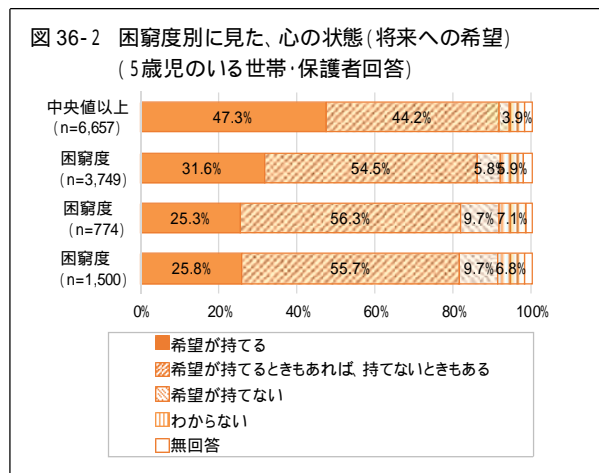
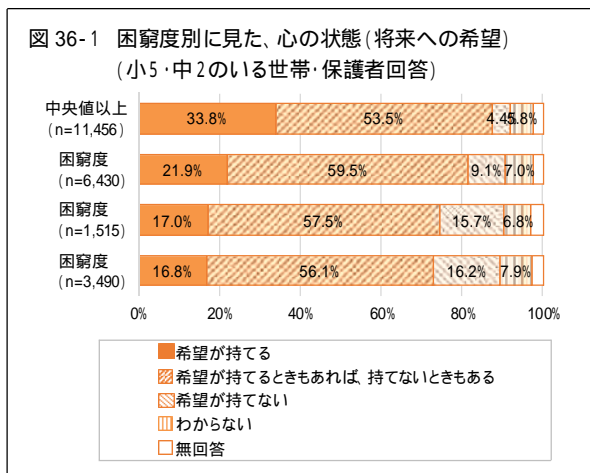
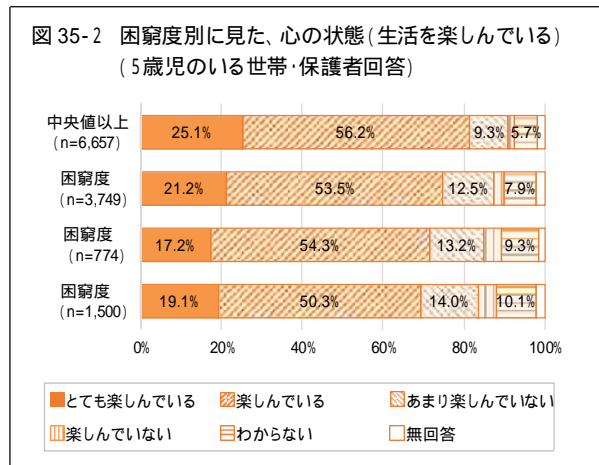
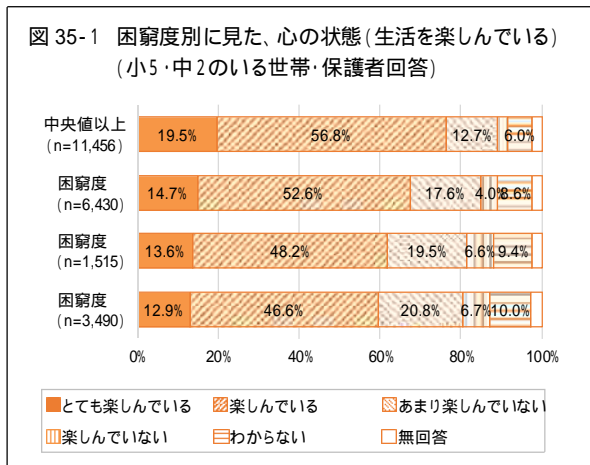
47.3%に対し困窮度 群は 25.8% (図 36-2)となっています。

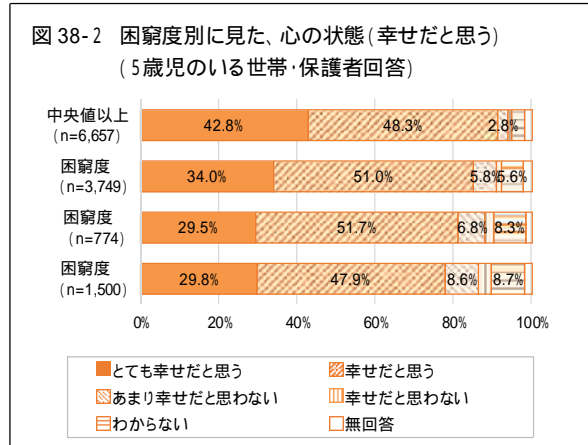
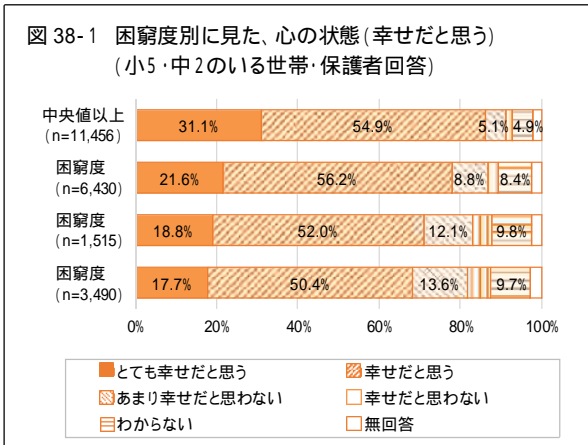
(ウ) ストレスを発散できるものが「ある」

ストレスを発散できるものが「ある」と回答する割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の 43.9%に対し困窮度 群は 29.5% (図 37-1)、5歳児の保護者では、中央値以上群の 42.6%に対し困窮度 群は 30.5% (図 37-2)となっています。

(エ) 幸せだと思う

「とても幸せだと思う」「幸せだと思う」の合計の割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の 86.0%に対し困窮度 群は 68.1% (図 38-1)、5歳児の保護者では、中央値以上群の 91.1%に対し困窮度 群は 77.7% (図 38-2)となっています。





## ケ 困窮度別に見た学習の状況

### (ア) 授業以外の勉強時間

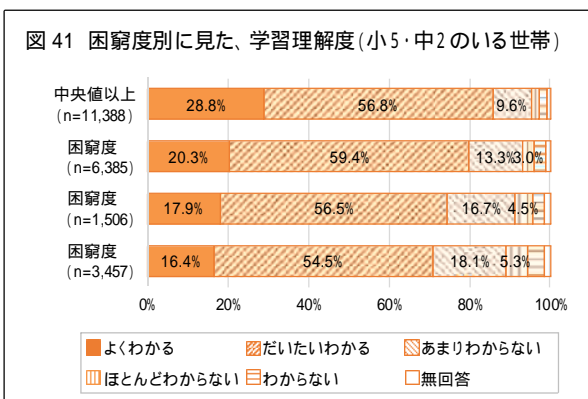
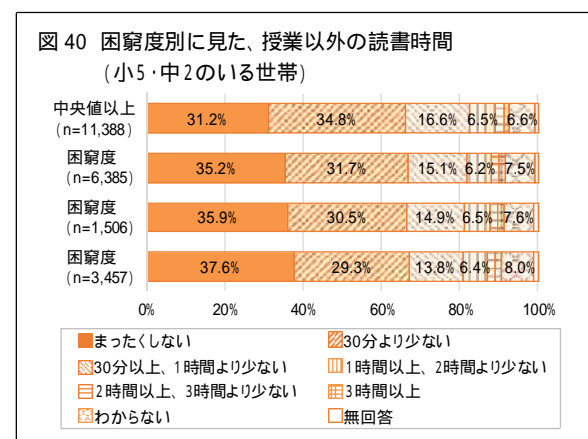
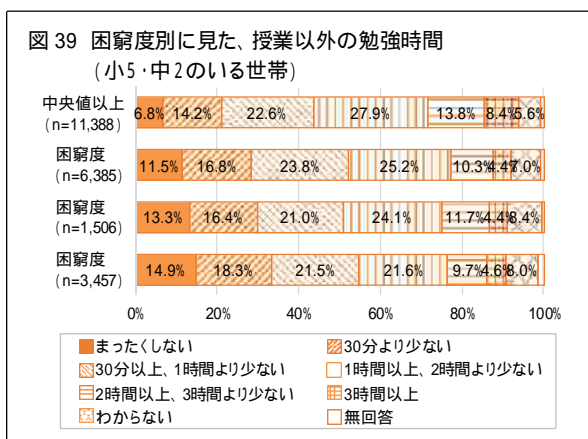
困窮度が高くなるにつれ、「まったくしない」と回答する割合が高くなり、中央値以上群では 6.8%であるのに対し、困窮度 群では 14.9%となっています(図 39)。

### (イ) 授業以外の読書時間

困窮度が高くなるにつれ、「まったくしない」と回答する割合が高くなり、中央値以上群では 31.2%であるのに対し、困窮度 群では 37.6%となっています(図 40)。

### (ウ) 学校の勉強

困窮度が高くなるにつれ「よくわかる」と回答する割合が低くなっており、中央値以上群では 28.8%であるのに対し、困窮度 群では 16.4%となっています(図 41)。



## コ 生活リズムと学習の状況

### (ア) 授業以外の勉強

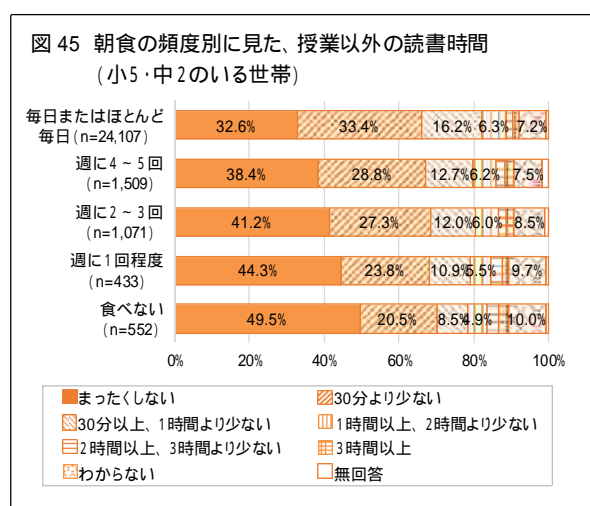
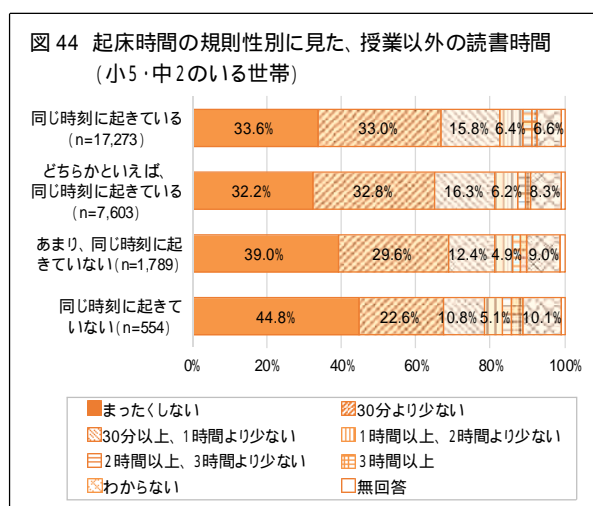
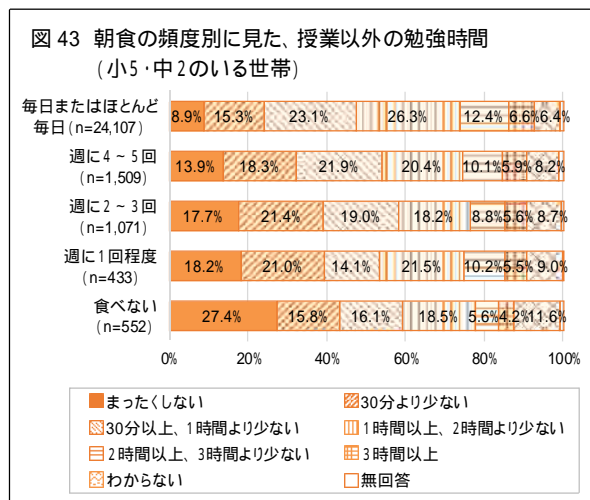
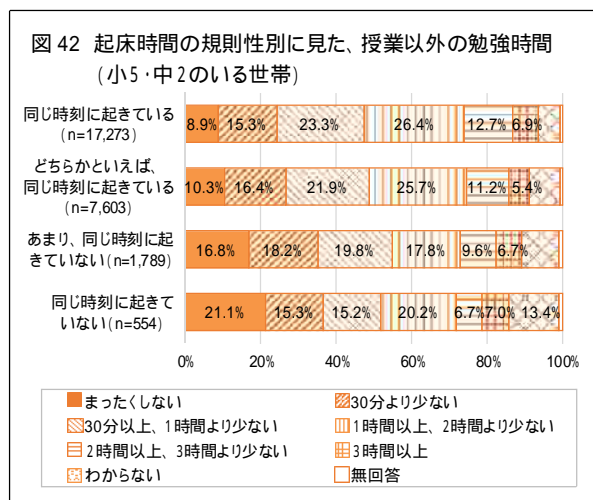
「まったくしない」と回答する割合は、同じ時刻に起きている群は 8.9%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 21.1% (図 42)、毎日またはほとんど毎日朝食を食べている群は 8.9%であるのに対し、食べない群では 27.4% (図 43)となっています。

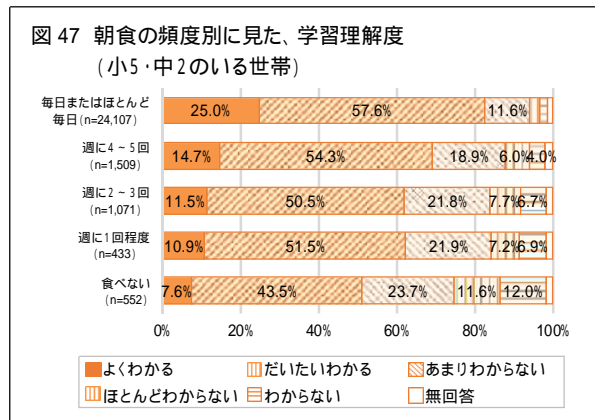
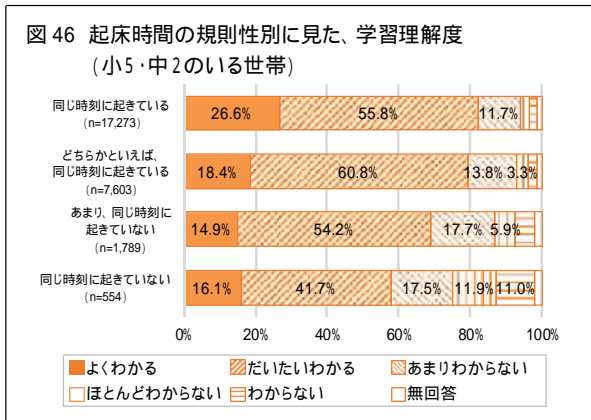
### (イ) 授業以外の読書

「まったくしない」と回答する割合は、同じ時刻に起きている群は 33.6%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 44.8% (図 44)、毎日またはほとんど毎日朝食を食べている群は 32.6%であるのに対し、食べない群では 49.5% (図 45)となっています。

### (ウ) 学校の勉強

「よくわかる」「だいたいわかる」の割合の合計は、同じ時刻に起きている群は 82.4%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 57.8% (図 46)、毎日またはほとんど毎日群は 82.6%であるのに対し、食べない群では 51.1% (図 47)となっています。





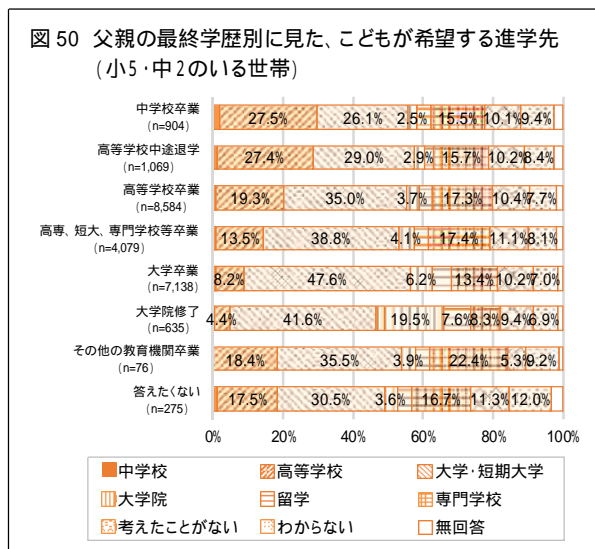
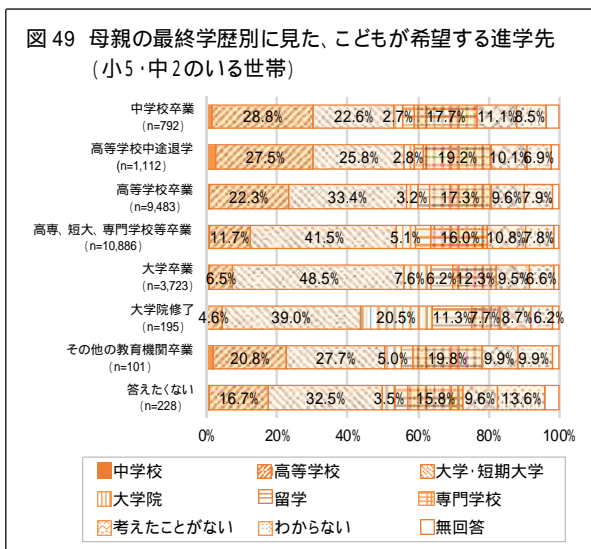
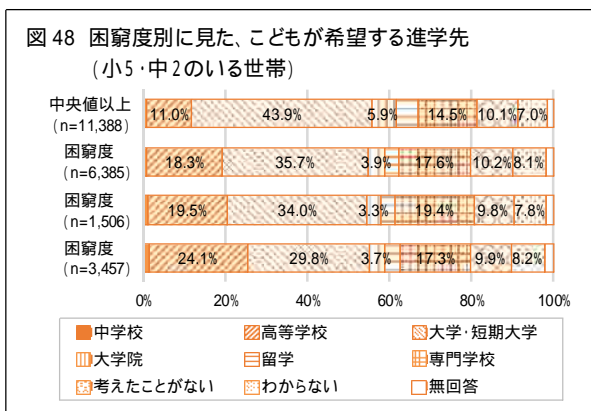
## サ こどもが希望する進学先

### (ア) 困窮度別

困窮度が高くなるにつれ、学歴の低い進学先を希望する割合が高くなり、高校を希望する割合は中央値以上群では 11.0%であるのに対し困窮度 群では 24.1%、大学・短期大学を希望する割合は、中央値以上群では 43.9%であるのに対し困窮度 群では 29.8%となっています(図 48)。

### (イ) 保護者の最終学歴別

母親、父親ともに、最終学歴が中学校卒業又は高等学校中途退学の場合、中学校又は高等学校を希望する割合が約 30%であるのに対し、母親、父親ともに、最終学歴が大学卒業の場合、中学校又は高等学校を希望する割合は 10%未満となっています(図 49、図 50)。



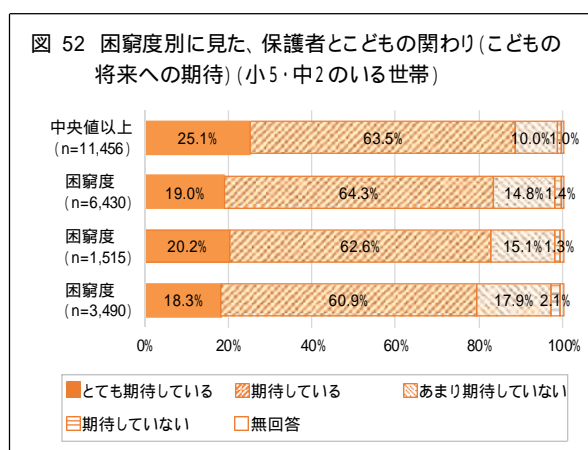
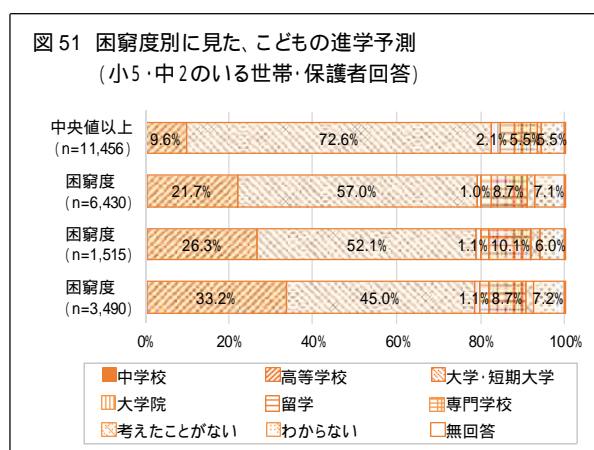


## シ 困窮度別に見た保護者のこどもに対する進学予測

困窮度が高くなるにつれ、高等学校卒業までの割合が増えており、中央値以上群では 9.6%であるのに対し、困窮度 群では 33.2%となっています(図 51)。

## ス 困窮度別に見た保護者のこどもに対する将来への期待

困窮度が高くなるにつれ、「あまり期待していない」「期待していない」の割合が増えており、中央値以上群では合計が 11.0%であるのに対し、困窮度 群では、20.0%となっています(図 52)



## (5) ソーシャルキャピタルの欠如の状況

### ア こどもが放課後に一緒に過ごす相手

#### (ア) 困窮度別

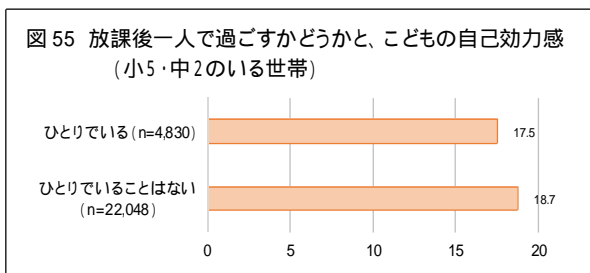
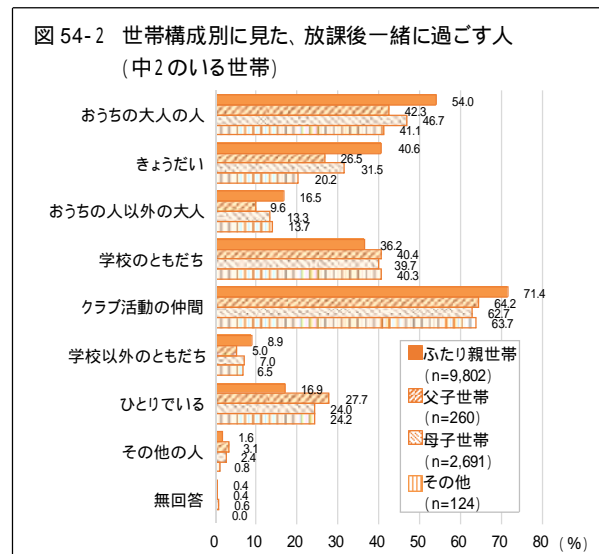
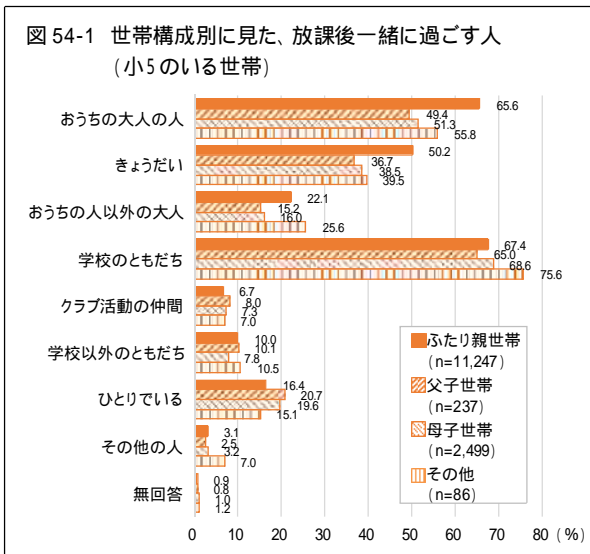
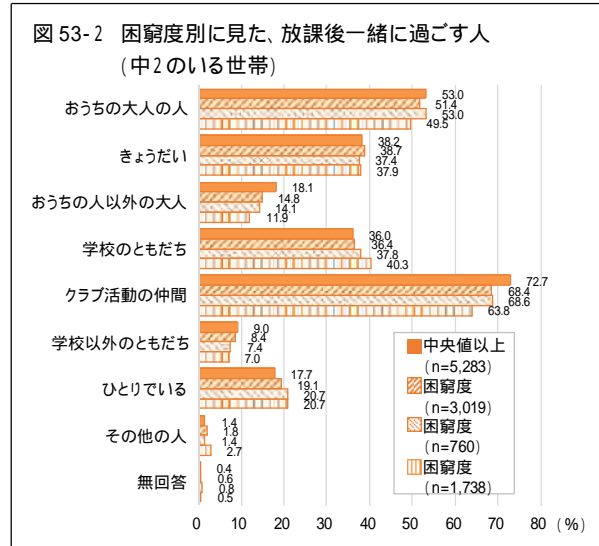
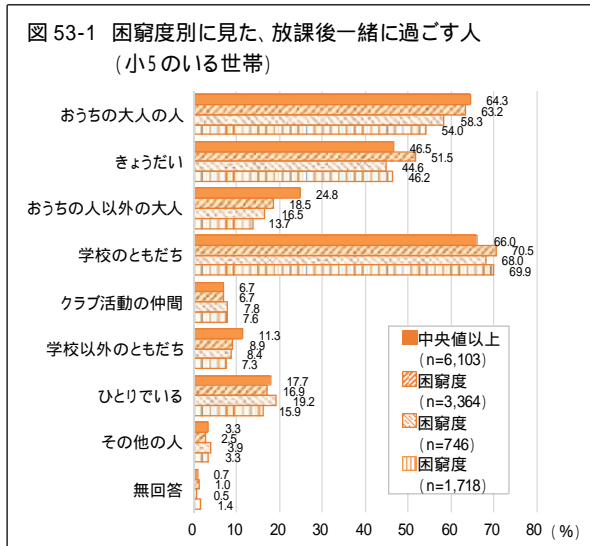
差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「おうちの大人の人」が中央値以上群では 64.3%であるのに対し困窮度 群では 54.0%、「おうちの人以外の大人」が中央値以上群では 24.8%であるのに対し困窮度 群では 13.7%(図 53-1)、中学校2年生の場合、「おうちの人以外の大人」が中央値以上群では 18.1%であるのに対し困窮度 群では 11.9%、「クラブ活動の仲間」が中央値以上群では 72.7%であるのに対し困窮度 群では 63.8%(図 53-2)となっています。

#### (イ) 世帯構成別

差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「おうちの大人の人」がふたり親世帯では 65.6%であるのに対し、父子世帯では 49.4%、母子世帯では 51.3%、「きょうだい」がふたり親世帯では 50.2%であるのに対し、父子世帯では 36.7%、母子世帯では 38.5%(図 54-1)、中学校2年生の場合、「おうちの大人の人」がふたり親世帯では 54.0%であるのに対し、父子世帯では 42.3%、母子世帯では 46.7%、「きょうだい」がふたり親世帯では 40.6%であるのに対し、父子世帯では 26.5%、母子世帯では 31.5%、「クラブ活動の仲間」がふたり親世帯では 71.4%であるのに対し、父子世帯では 64.2%、母子世帯では 62.7%、「ひとりである」がふたり親世帯では 16.9%であるのに対し、父子世帯では 27.7%、母子世帯では 24.0%(図 54-2)となっています。

#### (ウ) こどもが放課後一人で過ごすかどうかと、こどもの自己効力感

こどもが放課後一人で過ごすかどうかと、こどもの自己効力感を見ると、「ひとりである」群の方が、「ひとりではない」群よりも自己効力感が低くなっています(図 55)。



「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「大人は信用できる」「自分の将来の夢や目標を持っている」「将来のためにも、今、頑張りたいと思う」「将来、働きたいと思う」の6項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を記載しています。得点が高いほど、自己効力感(ある状況において、必要な行動を効果的に取ることができると思えること(可能性の認知なので、「できると思える」の逆で「できると思えない」ことも含まれる))が高いことを表します。

## イ こどもが放課後に過ごす場所

### (ア) 困窮度別

差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「塾」が中央値以上群では 25.0%であるのに対し困窮度 群では 10.5%、「習い事」が中央値以上群では 49.6%であるのに対し困窮度 群では 30.8%(図 56-1)、中学校2年生の場合、「塾」が中央値以上群では 37.4%であるのに対し